学校通信 いず美

練馬区立大泉東小学校

http://www.ooizumi-e-e.nerima-tky.ed.jp

平成２９年２月１日

３学期「目標の実現を確かめ、互いのよさを認め合い、自信を深める」学期

『脳を揺さぶる授業』

校長　岡部　良美

脳を揺さぶる授業は本当にいいものです。そこには真剣勝負があるからです。子どもの独創性、豊かな発想があるからです。年間８回の土曜授業公開の中で、その場面をご覧いただけたでしょうか。子どもたちが、教材にどんどんのめり込み、すばらしい創造性を発揮していく。その過程がたまらなく楽しいのです。

小学校４年生の国語の教材に、新美南吉さん作の「ごんぎつね」があります。授業は物語のあらすじ確認から始まります。事実確認、状況確認、場面確認をしてから、イメージを膨らませていくのです。その授業場面では手がよく挙がるものの、主人公「ごん」の内面を推測するような展開になると、挙手はぐっと減るものです。ここで教師の力量が発揮されるのです。こういう場面に遭遇した場合、教師は手を変え、発問の仕方を変えて、できるだけ多くの子が手を挙げることができるように工夫するのです。質問に対する正答はあっても、教師は多くの子どもに考えさせ、その子なりの言葉をつかって発言させていくのです。そして、その中で、友達の発言に対しても反問（質問された相手に、逆に問い返すこと）することが生じてくるのです。授業は教師の説明中心の授業もあれば、子どもの思考を基に練り上げていく授業もあるのです。

どちらの授業でも大切にしたいのは子どもの脳をゆさぶることです。「ごんぎつね」の教材を例に挙げれば、「明くる日も」の『**も**』に注目させ、「明くる日**に**」や「明くる日**は**」とした場合とどう違うのか、『**も**』にした時の「兵十に対する感情」等を追求させる授業が、感動を生む授業になるのです。学級のすべての子どもが食い入るように授業に集中し、目を輝かせた表情を見せるのです。

大東小の教師は昨年度から『授業過程５則』を授業の基本として、「子どもが１時間の学習のめあてを知ることで見通しをもち」、「主体的に自分の考えをもち」、「友達と対話し」、「まとめ」、「子ども一人一人が学びをふり返る」学習を進めています。まさしく脳をゆさぶる授業を進めているのです。

授業は生きています。想定外のことも起きるからこそ、授業は楽しいのです。子どもは常に真剣に生きているからこそ、想定外のことを論じるのです。２月の土曜公開授業はどのような脳をゆさぶる授業の中で学習しているかをご覧ください。

さて、大東小は平成２９・３０年度練馬区教育委員会教育課題研究指定校として、さくら学級および通常の学級すべての学年において、外国語活動・外国語（英語）の研究を進めます。未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力をつけていきます。

○【校舎等全面改築工事の情報】体育館・南校舎建設の測量を終え、杭打ちが始まります。

○【主な給食使用食材の産地についてのお知らせ　１月】

お米（青森県産　まっしぐら）牛乳（北海道、青森、岩手、秋田、宮城、群馬、千葉）大根（練馬区）
キャベツ（練馬区）小松菜（練馬区・埼玉）じゃがいも（北海道・鹿児島）長ねぎ（練馬区）
えのき（長野）にんじん（埼玉・千葉）里芋（練馬区）さつまいも（茨城）白菜（練馬区）
鶏肉（岩手）豚肉（青森）大豆（北海道）マンダイ（宮城）イナダ（岩手）鮭（北海道、宮城）